

中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

～ しがのふるさと支え合いプロジェクト～

参加大学・高校様
参加企業様
大募集！！



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

未来へつなぐバトン

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約65%がこのような地域です。農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。

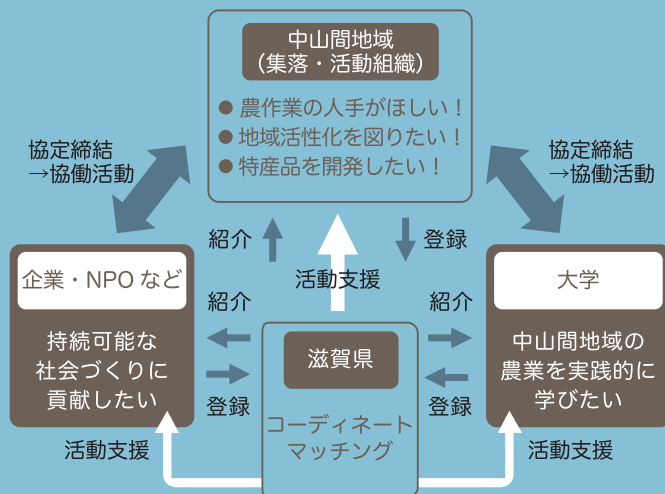
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。

今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつあります。

都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？

都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。

県では、協働活動のコーディネーターや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。

米原市の伊吹くらしのやくそう倶楽部は、令和元年に県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、農作業等の協働活動に協力してくれる大学・高校、企業等を募集しています。

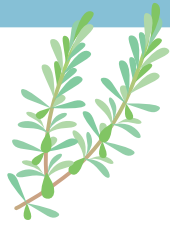
詳しくは
こちら



いぶき

伊吹くらしの やくそう 倶楽部の紹介

【アクセス】名神高速道路米原、長浜、関ヶ原各インターチェンジより(約25分)、JR東海道線近江長岡駅 湖国バス長岡登山口・曲谷線(甲津原行)「道の駅旬彩の森」バス停で下車。(徒歩15分)



▶「ニホンアカネ」
和泉菫の里 HP より



▶イブキカリヤス



「伊吹くらしのやくそう倶楽部」

代表 嶋野 堅一 氏
事務局 嶋野 美知子 氏

古くから伝わる薬草の宝庫

滋賀県最高峰の「伊吹山」。古くは『古事記』や『日本書紀』にその名が記される歴史的な山岳である。織田信長が薬草を栽培させたという史実があり、今でも伊吹山周辺には固有種を含め、数多くの薬草が自生している。独自の土質や地形が薬草にとっては好条件なのだそう。その麓である小泉集落で活動している『伊吹くらしのやくそう倶楽部』。伊吹山の自然に魅せられ、都会から移住してきた夫婦がきっかけとなり発足した団体だ。今まで無縁だったこの地で、熱心に活動されているその想いを嶋野ご夫妻から伺った。



▶伊吹山の麓から噴き出す桶水

自然の力を借り、 持続可能な農業を

小泉は、棚田が広がる地域。嶋野ご夫妻は、開墾作業からスタートした。長年手入れされていなかったの、草だけではなく、木も伸びており、伐採や伐根という重機での作業も伴った。自治体、一般ボランティアにも手伝ってもらいながら、なんと80aの棚田を整備されたそう。現在、整備された棚田では薬草栽培を進めている。伊吹山は薬草が有名な一方で、今では栽培する人がほとんどいないそう。現状に危機感を感じ、2014年に有志メンバーで『伊吹くらしのやくそう倶楽部』を発足させ、千年の歴史のある伊吹の薬草ブランドを復活し、棚田の保全と持続可能な地域づくりを目指して活動を続けている。原動力は小泉の自然だと語ってくれた。「ここに来る前は大阪に住んでおり、水の源流はどこか?と思った時に滋賀県に行き着きました。なるべく環境に負荷をかけない農業をしたかったので、上流のほうで探していたんです」そう話すのは会長嶋野堅一さん。「なんといつても「桶水」。飲める湧水なんです。この水で田んぼや畑ができるのは小泉の最大の魅力です」事務局の嶋野美知子さんも語ってくれた。「桶水」とは米原市の水12選にも選ばれている湧水。小泉はこの水を農業用水にしており、さぞかし美味しい作物ができるのだらうと想像を掻き立てられた。また滔々と湧き出る水量には圧巻される。持続可能な農業や、豊かな自然を守りたいという想いに自然とさせてくれるのが「姉川上流域」なのだと感じた。

千年の歴史を持つ 「伊吹の薬草」を未来へ繋ぐ

伊吹くらしのやくそう倶楽部では一緒に活動してくれるパートナー団体を探している。現在活動しているのは草刈や水路の清掃などの棚田の保全作業、収穫体験、味噌作り、しめ縄作りなどの田舎暮らし体験と様々。これに加え、棚田薬草・ハーブ植物園をつくっていき、在来種の染料作物であるイブキカリヤス、ニホンアカネの栽培も進めているそう。今後は薬草を使ったクラフトビールの商品化や、イブキカリヤスなどの染料体験によるグリーンツーリズムなどにチャレンジする。このような活動を通じ、訪れる人や地域に暮らす若者が増え、子供からお年寄りまで、人々の笑顔がいっぱいの伊吹地域になることを願っている。多種多様な活動があるので、この地域に携わる方それぞれにやりたいうことが実現できる地域である。外部からの視点のアドバイスも希望しているので、作業だけでなく、この地域をどう次世代につないでいくかと一緒に知恵を絞ってくれる団体も募集している。協働作業することで、活動の点が線となり未来へ繋がっていくことに期待したい。



(伊吹くらしのやくそう倶楽部のめざす未来)

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくは
こちら

